

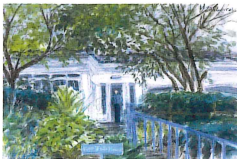
開館15周年記念
企画展

ゆかりの美術館 ギフトの物語 ～市役所・北野から、震災をこえて～

4月23日(土) ▶ 6月26日(日) 前期 5/22 後期 5/24～

2007年に開館した当館は、今春15周年を迎えます。文化ホール、相楽国会館、文書館、勤労会館、区民センター等に飾られていた作品が美術館へやって来た道(舞台裏)を紹介します。また、昨年寄贈された「ギャラリー・White House」

(1988年から阪神淡路大震災まで北野の文化拠点だった)の絵画・彫刻と震災を描いた新収蔵品を展示します。



(左) 西村 功 《ホワイトハウス》1988年 素描 前期展示
(右) 吉見敏治 《六甲アイランド仮設住宅》1997年 素描 後期展示

特別展 白洲次郎・白洲正子 武相荘 折々の暮らし

7月16日(土) ▶ 9月25日(日)

白洲次郎(芦屋市生まれ)は旧制県立第一神戸中学校(現神戸高校)を卒業後、ケンブリッジ大学に学びました。白洲正子は薩摩藩士の血を引く樺山家に生まれ、幼少期から古典芸能に親しみ、随筆家として著名です。二人が結婚後に移り住

んだ武相荘(東京都町田市)に残された洋服、着物、骨董品、自筆原稿など貴重な資料で二人が過ごした日々の暮らしをみつめます。



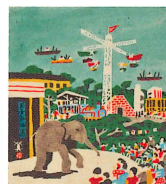
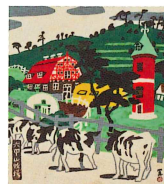
(左) 東北電力会長時代の白洲次郎 (1952年) (右) 白洲正子

特別展

川西 英 ～三つの百景

10月15日(土) ▶ 12月25日(日) 前期 11/20 後期 11/22～

創作版画家として名高い川西 英は、生涯に3度、百景と題する風景連作を制作しました。一度目は木版画の代表作「神戸百景」(1933～36)、二度目は水彩画の「新神戸百景」(1952～53)でした。戦後の神戸百景は、1961年に加筆され、新たに描かれた作品と併せて画集が刊行されています(当館はこの原画を所蔵)。三度目は神戸新聞社の連載用にポスターカラーで描いた「兵庫百景」(1962～63)です。原画は震災で失われましたが、その写しが神戸市立博物館に所蔵されています。複製ではない三つの百景が一堂に揃う、未だかつてない贅沢な展示です。



川西 英「新神戸百景」より (左)《六甲山牧場》1961年 (右)《王子動物園》1952～61年

第9回 日展

2023年 2月18日(土) ▶ 3月26日(日)

日展は戦前の官展(文展・帝展)の歴史を引き継いだ現代美術の総合展で、国内最大規模の公募展です。長年開催されてきた大阪市立美術館が改修工事に入るため、令和4年度から3年間だけ神戸で開催されます。神戸ファッション美術館との合同開催です。

第9回 日展

・本展は別料金となります

開館時間 午前10時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)

休館日 毎週月曜日 (祝日の場合はその翌日)、

7月19日㊤、9月20日㊤、展示替などの臨時休館日

12月26日㊤～2023年2月17日㊤ (設備改修工事を含む)

■ 企画展入館料 一般 200円 (150円)、大学生・65歳以上 100円 (50円)

- ・ () 内は30名以上の団体割引料金
- ・ 高校生以下・神戸市居住の65歳以上の方、無料
- ・ 小磯記念美術館、神戸ファッション美術館の入館券(半券)をお持ちの方、割引
- ・ 特別展は別料金となります